

では いっておいで

◇ 登場人物

- ・ 心／部長
- ・ ヤンキー／専務
- ・ 身体

バスの車内。

心(独白) ところ、と、からだ。人は、心を持ち、人は、身体を持つ。心と身体は、いつも隣にいて、いつも違う方を向いている。時には、身体が付いていかない。かと思えば、心が置き去りにされる。だから、足並みは揃わない・・・心と身体がくっついて、ひとりの人間をつくるのではない。ひとりの人間のなかで、心と身体が領地を争っているのだ・・・今日、私、西沢明彦の心は、もう一人の私、西沢明彦の身体に、置いていかれた。

プシューっとドアの開閉音。すぐにエンジン音。

身体、バスに乗り込んできて前の座席に座り、ぼんやり佇む。

心(身体に) おーい！ 俺の身体よ。なんぞ、お前は？ おーい、身体よ。肉体よ。俺はお前の心ぞ？ お前の魂ぞ？ 身体と心はワンセットでしょう！ なら、なぜに俺を置いていくぞ？ お前が勝手に出発しちゃうもんだから、俺は急いで先回りしてバスに乗り込んだん

ぞ？ なあ、俺まだ準備中だったろ？ なあ、心の準備してたら？ なんて置いてつちやうかなあ？ ねえ、なぜに心残り？ 心はないがしろか？ 心ここに在らずか？ ん？・・・ねえ、身体よお。今から仕事ぞ？ 通勤バスに、心に乗せないってどういうことぞ？ ん？ お前、心を通わせないのか？ まあ、わかるよ？ 昨日会社でお前がミスをして、あげく部長にも見放されて、そのショックで心の俺にだいぶ負担は来てる。だから、俺を気遣ってくれてるのはわかるよ？ でもね、シカトはなしよ。ちゃんと見えてるんでしょ？ だって、自分の心なんだから。なんとか言ったらどうよ・・・頑なに無視か。じゃあ、こつちだつて考えがある。いつまでも無関心でいられると思うなよ！

いつのまにか、会社のオフィスに場面が変わる。

身体、後ろを向き、並んでいる椅子をパソコンに見立て、なにやら仕事をしている様子。

心は、部長に変わっている。

部長 おい、西沢君。

身体 あ、部長！

部長 株の誤発注だった？ なにがあったんだ？

身体 あの・・・「二〇万円で一〇株の売り」のところを、「一〇円で二〇万株の売り」と入力してしまつて。

部長 取り消したの？

身体 それが、できなくて・・・。

部長 なんて？

身体 わかりません。

部長 わかりません、って！ いつ気付いたの？

身体 わかりません。誰かが気付いて・・・

部長 全部買い戻したのか？

身体 みたいです。

部長 お前な、なんでそんな他人事みたいに。会社にどれだけ損害が出たと思ってるんだよ。

身体 損失額はまだ教えてもらっていないくて。

部長 ……こんなミスして、よくもまあこうどっしり座っていられるな。

逆に凄いよ。

身体 ありがとうございます。

部長 礼を言うな！

身体 (ビビって) へ？

部長 皮肉ってんの！ もうちよつと申し訳無さそうに振る舞え！

身体 いいから黙って座っておけって言われて・・・

部長 (つぶやくように) ……もう、何してんだよ。

身体 いまは、ソリティアです。

間

部長、ブルブルと体が震えだす。今にも身体に殴り掛かりそうな拳を、必死で押さえている。

部長 こらえろ、俺。

間

部長、エアロビクスを踊りだす。

部長 (踊りながら) 踊るんだ、落ち着くんだ。

間

身体、再び前を向きぼんやり座っている。すると、場面も、バスの車内に戻っている。

部長は心に戻り、楽しそうに踊っている。

心 おい！ 感じるか、身体よ？ 心が躍ってるぞ！ どうだ、踊る俺、

ウザいだろう？ これでも無関心を装うのか？

心、踊りが激しくなり、飛び跳ねたりする。

心 ほら、心弾んでるぞ！

と心、いきなりよろめいて、転んでしまう。

同時に、グキツという音。

心 ぎゃー！ おい、身体聴こえた？ いまの聴いた？ ……心が、折

れたよ。

心、痛がる素振りを見せながら、身体を気にしている。

心 おい、身体！ こつちを見てくれよ。騙されたと思って。心を見るのを、試みて？ ほら、見てみ？ 患部見てみ？ わかるか？ 腫れてきたぞ？ だんだん心腫れてきたぞ？

身体の顔に向けて、息を吹きかける。

心 なあ、身体。臭うか？ どうだ、俺の口臭は？ 心息はどうだ？ カラカラに乾いた心息だぞ？

心、仕方なくバス中を動き回る。

心 おい！ 今日貸し切りじゃないか！ テンション上がる！ もうね、なんだって出来るね！ ヤッホー！ ……ああ、心あつたまってきたよ。というより、暑くなってきた。熱くなってきた！ 問題！ 心のどこが熱くなってきたらどうしようか？ え？ どこ？ そこ？ そこってどこ？

心、一瞬股間を見る。

間

心 せいかりい！ 心のソコから、熱が出てます！ どうなってるか、見てみる？ ねえ、見てみたいの？ 内緒よ。

心、服を脱ぎ捨て、もじもじ。

心 ねえ、見てくれないの？ 心、裸になったよ？ どう？ あたいの裸いぐね？ いぐねえが？ 心かなくなったよ？ わかる？ 前より、スマートになったっしょ？ 心細くなったっしょ？

心、身体の上に乗る。

心（独白）その時、突然バスが揺れた。そして同時に、心も揺れた。

心、身体の上から降り、フラフラしだす。

心 やばい！ 気持ち悪い…やい！ バス！ おのれバス！ もっとちゃんと安全運転を心掛ける！ うわ…。

音を立て、後ろの方の座席の上に嘔吐する。

間

心、ブルブル震えだす。

心（虫の息で）身体、気持ち悪いよ。寒いよ、心が震えて止まらないうよ…（独白）寝ます。

心、身体の上に被さるようにして席に座り、寝る。

間

運転手が停車するバス停の名をアナウンスし、バスが止まる。

プシューとドアが開く音。

心、目を開け、少しだけ体を起こす。

心(独白) 私の安眠を邪魔するかのようには、バスに誰かが乗ってきた。バスのドアが開いた瞬間、狂気の気配が、微かに、確かに、感じられた。そして、その狂気は本物だった。新たな乗客は、

ヤンキー、バスに乗ってくる。

心(独白) 左腕に「ネギ」と書かれたタトウを掘っていた。どういう心持ちでそれを刻み込んだのか。正気の沙汰とは思えない。

心、ヤンキーの後ろに回り込み、後を付いて歩く。

心(独白) しかも、(ヤンキーを逆向きにさせる) 反対側は「ニラ」だった! イケてるの、それ? そこまでいくと、逆にお洒落なの? なんかマラカス持ってるし。怖い。私は、私を閉ざそうと思った。

心、席に戻り、目をつぶる。

ヤンキー、身体と心のすぐ後ろの席に腰を下ろす。ヘッドホンをつけ、音に乗り、マラカスを鳴らしている。

間

心、飛び起き、

心 待つて待つて待つて。なんですぐ後ろ? 他に席こゝんなに空いてるのにぞ? 何が目的ぞ? …あゝムズムズする。首筋がもう…。二人じゃん。車内に二人じゃん。離れて座るでしょ、普通! しかも、パチパチうるさいし! いま心は気持ち悪いの! この音ね、けつこう心に響くの! これじゃ寝れないよ!

ヤンキー 何見てんだよ!

心 へ? 見てないよ? え? まあでも、とりあえず謝っとけ。おい、身体。謝れ! 後ろの席のへんなヤツに謝れ! ほかに乗客いないから、たぶんお前に言っただよ。おい、はやく。

間

身体、後ろを振り向くと、場面がオフィスが変わる。

心とヤンキーは、それぞれ部長と専務へと変わる。

部長、身体の隣で地面に跪き、専務と向かい合う。

部長 すいません、専務。彼も、故意でやったわけではなくて、今回の誤発注は事故だったわけで…。

専務 わざとじゃなければ、何をやってもいいんかい? 選挙管理委員会?

部長 ……いえ、まあ、でも…。

専務(部長に)じゃあ君が、二〇〇億円の会社の損失を補填するのか? 全額! 尖閣?

部長 それは・・・。

専務（身体に）そういえば、西村君。

身体 西沢です。

専務 西沢くん。聴くところによると、君の身体には、心臓が一〇個もついているそうじゃないか。

身体 一個です。

専務 心臓つてのはね、結構高く売れるらしいよ。

部長 専務、そういうのは・・・。

専務 あー！ そういえば、君の肝臓は、アルコール１リットルを二秒で分解できるそうだね。

部長 彼も反省していますし・・・。

専務 あー！ そういえば、君の小腸は、伸ばすと地球を三周できるそうだね。あー！

部長 専務！

専務 だったら！・・・会社辞める。じゃなきゃ、俺がやっちゃまうぞ。言っとくがな、俺にマラカスを持たせると、ヤバいぞお。ポリフェノール倍増。

部長 すいませんでした。

部長、深々と頭を下げる。

身体が頭を下げっていないことに気づき、

部長（身体の頭をつかみ、下げようとする）君もちゃんと謝りなさい。と

いうか、なんで私だけが土下座してるんだ！

間

身体、前を向き直ると、バスに戻っている。

心とヤンキーに、それぞれ戻っている。

心、身体を叩いたり、顔を持って動かそうとしたりするも、びくともしない。

心 おい、身体、謝れって！ こういう風に意味もなく絡まれたときはな、

ひたすら謝るのが一番だ！ なあ、おい！ 心の声を聴け！ さあ、はやく・・・チクショウ！（独白）身体が言うことを聞かなかった。

ヤンキー 何見てんだよ！

心 あ、すいません・・・待てよ。俺か？ この人、俺が見えてるの？ 見透かされてる。こいつ、細木数子の生まれ変わりか？ ん？ そもそも、あいつ死んでたっけ？

心、フラフラとヤンキーの視界から消える位置まで移動する。

ヤンキー（身体に）何見てんだよ！

心 心ここですけど？ ホントに見えてんのか？

ヤンキー エヴィバディセイ、何見てんだよ！

心 エヴィバディセイって言った！ エヴィバディセイってこいつ！ はっはっん、歌か！ なっんだ、聴いている音楽を、口ずさんでたわけね。納得納得・・・納得じゃねえよ！ どんな歌だよ！ なんだよ、エヴィバディセイ何見てんだよ！ ってなんだよ！ いやいやいや

いや！ やっぱ頭おかしいわコイツ！

心、身体を力強く揺さぶり、

心 なあ、おい！ ここは危ない！ こいつはヤバイ！

ヤンキー、さらにノリノリになって、身体が座る席をリズム良くパンチしている。

心(ヤンキーを気にしながら) もう、なんなの？ 何を聴いてたらそんな風にノレるわけ？

ヤンキーのパンチが心のあごを直撃する。

心 いたあ！ 嘘でしょ？ 見えてんの？・・・やい身体！ なんだそんな無反応なんだよ！ お前な、グーパンぞ？ 心を打たれたんぞ？ 今の一撃で、心砕けたぞ？ ハートブレイクぞ？ それなのに、スンとも言わぬか？

床に倒れる。ヨロヨロと立ち上がると、あごが歪んでいる。

心 おい、身体！ 心歪んでるよ！ どうしてくれんだよ！

一瞬真っ直ぐに戻るも、徐々にまた歪んでいく。

心 ほら！・・・もういい。知らん、お前なんか。心離れてくぞ？ 向こうに行っちゃうぞ？ いいのか？・・・いい。

心、後ろの方の席に座る。が、そこには先ほどの嘔吐物が、

心 ギャーッ！・・・(独白)ゲロだった。私が先ほど吐き出したゲロを踏んでしまった。うわ、染みてる・・・いや、待てよ。私から吐き出されたんだから、これはゲロじゃなくて、感情とか、うっふんとか、そういうものってことだ・・・でもクセーッ！

心、立ったままうなだれ、フラフラと左右に揺れる。

ヤンキー、急に身体の首を掴み、大きく揺らす。

いつのまにか、身体は後ろに向き直り、オフィスへ場面が変わっている。

専務、身体の襟元を掴んで激しく揺さぶっている。
部長、エアロビクスをしている。

専務 どうなんだ！ はっきり言ってみろ！ ミロ！ カッコ、ココアみたいなヤツ。

身体 すいませんでした！

専務(揺さぶりながら) キーッ！ キー。カッコ、英語で鍵っていう意味の、キー。

身体(苦しそうに) 部長、助けてください。

部長、エアロビクスをしながら徐々に遠ざかっていき、しまいは陰に隠れる。

ヤンキー、手を止めない。

身体 部長……

心(独白)やはり、見るに堪えなかった。私が救ってあげなければ、彼は、私の身体は、

間

ヤンキー、急に振り向いて、

身体、前を向き直り、バスに戻る。

身体、ヤンキーに揺さぶられている。

ヤンキー おい、こいつの心！

心、バスの後ろの方でうずくまっていたが、立ち上がる。

心 え……？

心 やばい、完全に酔っちゃったわ。あ、これこそまさに、心酔、つてやつだな。(独白) ちなみに、床上浸水の浸水ではない。

ヤンキー こいつがいつまでたってもミスばかりしてんのはな、成長しないのはな、お前のせいだ！ お前が変わらないからだよ！

と、揺さぶられる身体に気付き、

心 え、待って待って。ごめん、全然わかんない。なんだこれ？

心 待って待って！ 何してんだよ！ 俺の身体だぞ！

身体、携帯電話で会話を始める。

心、身体を助けに行こうとするが、途中で立ち止まる。

身体 あ、もしもし、部長ですか？ ……あの、昨日は、どうもすいませんでした……はい。今日からは、心を入れ替えて頑張ります……

心 だめだ。離れるって決めたんだ。いつもそうだ。俺が色々やってあげたり、我慢したりするから、アイツは俺に依存してしまって、何にも成長してないじゃないか。向上俺も生まれないじゃないか。いいか、俺。俺よ、俺を鬼にするんだ。

身体、電話を切る。

ヤンキー そういうことだ。宜しくな。

心 ちよつと待てよ・・・ちよつと待てよ！

ヤンキー おい、元・こいつの心。今度誰かの心をやる時が来るまでに、

ちやんとお前自身に刻んでおけ。

心 何を？

ヤンキー・・・「ネギ」と「ニラ」だよ！

間

ヤンキー、マラカスをシャンシャンと鳴らしはじめる。

照明 F・O

了